

# ちば里山新聞

(第62号)  
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター  
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148  
 ☎ 0438-62-8895  
 題 字 倉島 貴浩  
 (ワークホーム里山の仲間たち)

## 令和3年度岡部塾が終了しました！！

令和3年度のチェーンソー作業リーダー育成講座全9回岡部塾が終了しました。第1～3回を11/21～12/5まで市原米沢の森にて行い、第1回はチェーンソー



大径60cm越え杉の伐倒



御十八夜のクヌギ伐倒

取り扱い基本編として、装備の点検と丸太切りを行いバーの当て方、切粉から木の内部状態を判断することを学びました。次にロープを使っての杉の伐倒をしました。第2回は大径木60cm越えの杉2本の伐倒です。直下に電線があるためロープ

を使い伐倒方向を制御しての作業です。まず岡部講師が模範伐倒したのち、受講生も指導を受けながら無事伐倒ができました。第3回は米沢の森・御十八夜で展望を阻害しているクヌギを鶴岡代表の依頼にての伐倒です。伐倒方向は玉切りを考えて遊歩道沿いに受け口を作った後、受口側より突っ込み扇型に広げて左脇にバーの先を出し、同じ切り面を探りながら追いツルを残し、最後は追いツルを切り離して伐倒しました。最後に時間が残ったので60cmの杉の丸太を吊り下げての伐倒練習をしました。

第4～9回は12/19～3/6まで袖ヶ浦市椎の森で行い、第4回はナラ枯れのコナラ3本の伐倒です。1本目はかなり腐朽が進んでいたようで、追い口を少し入れただけで倒れてしまった。他の2本は偏心木ということもあり、ロープを掛けウィンチ牽引にて伐倒しました。第5回は急斜面にあるクヌギを樁の木をよながらの伐倒になり、ロープとエンジンウィンチを使って、伐倒方向を制御しながら、受け口を作った後、芯切りより横突っ込みにて追いツルを残し、最後に



ブルーシックコードの作製

追いツルを切って伐倒しました。追いツル切りは受け口とツルを余裕で作れますが、伐倒速度が速いので倒れた衝撃が大きくなるので安全確保が大事です。最後に岡部講師による大径60cmの斜めになったコナラを伐倒速度のコントロールしながらの伐倒は見事でした。第8回は天気が良くないのでロープワークのサプライシングを実施しました。まず12ストランドのリギングロープ12mm長さ3mを使いウーピースリング(長さを変えられるスリング)の製作です。サプライス用具を使いロープの貫通、中通しと大



ロープワークを使って伐倒



伐倒方向も目標通り



枯れたコナラの伐倒



オープンフェイスカット

## 森林・山村多面的機能発揮対策事業でアドバイザー制度始動

## 受け口が伐倒方向を決める

1月21日(金)9時から松戸市金ケ作野中の森で伐倒研修が行われました。この研修は「森林・山村多面的機能発揮対策アドバイザー制度」を活用したもので、森林・山村多面的機能発揮対策事業担当としてちば里山センターから伊藤副理事長、遠藤氏が立ち合い、アドバイザーは松戸里やま応援団の代表野口功氏が務め、研修生としては同応援団甚左衛門の森の会などの有志19名が参加しました。

開始ミーティングで、森林施業技術に関する技術的・専門的な観点から指導・助言を行う同ア



伐倒方向を確認

ドバイザー制度の趣旨について遠藤氏から説明があり、チェーンソー、ロープ、滑車、チルホール等の作業に当たっては安全確保に努めて欲しい旨の助言がありました。

松戸市の里やまは都市部の樹林地の典型で、住宅がすぐ近くにあり道路は頻繁に車が流れ、買い物等の歩行者も多いという条件、それに加え、管理の行き届かない樹林中で同応援団は森林整備する活動を行っています。

この日の伐倒対象は松戸里やま応援団樹護の会が活動する金ケ作野中の森にある枯れたサワラです。昨年秋に急に枯れたので、接する隣家は不安だったに違いなく、生活道路が通っていることか



樹高 20.6m、直径 58.6cm

ら、処分が急がれました。

〈伐倒木と伐倒方向〉

野口アドバイザーから伐倒前にすべきことについて質問があった。対象木の重心を考え、伐倒方を決定して、障害物の除去、樹高の2倍の距離での退避などが参加者から発言がありました。

伐倒にあたって、伐倒方向にある小径木、切り株を処理し、次に対象木叩いて、枯れ具合を確認し、内部の枯れの広がりや伐倒に与える影響を考えた。ビッグショット(大型パチンコ)でロープを掛けて、かかり木を避けるよう伐倒方向を少し右に移動し、動滑車を経由して、チルホールを使い2倍力でけん引しました。

〈かかり木への気配り〉

チルホールでけん引し予定方向に倒れたが、広葉樹の上部の枝にかかり木となった。ロープと滑車を調整し、チルホールでけん引して引き落とした。伐倒後、内部は中心から直径25cmまで腐食が進んでいました。



内部が腐食

反省点の一つは広葉樹の枝が伸長している樹林地ではかかり木が避けられないことを想定し、事前の対応策を講じることが大事なことが分かった。伐倒後、反省会を行い、一連の作業を振り返った。伐倒後チェーンソー作業のまわりで枝を片付ける人がいたが、これは危険を伴うことから退避し待機すること。チルホールの位置が遠すぎたことでチェーンソー追口切の進行とけん引の作業者間のタイミングが重要であることから、チェーンソー作業の様子が分かる位置で待機する改善案が出されました。

## ちば里山ミーティング in 養老溪谷 (2/19 Field Work、2/20 Zoom)

養老溪谷の秘めた魅力と山村地域の現状を小湊鉄道月崎駅から飯給<sup>いたが</sup>駅に至る房総ふれあいの道を辿り里山の魅力を探る企画です。講師は地元ボランティアの花澤氏と大井氏で、まず月崎公民館より素掘りの永昌寺トンネルに向かいました。全国的にも珍しく将棋の駒の形で掘られ内部に照明もあり、地元住民も利用しているようです。柿



柿木台の里山風景

木台付近の里山は川廻しを利用した田畑もあり、先の台風では林道などが流され復旧工事が大変だったこと、近年はイノシシなどの害獣被害も多く、耕作放棄地も増えてきて里山の景観も変わってきているとのことでした。途中、真光寺に立ち寄り初代伊八の彫刻をみて飯給駅へと向かいました。



永昌寺トンネル



遮断機のない踏切

### 里山じまん ⑧

#### 成田・里山を育てる会

当会は平成11年に発足、平成16年にNPO法人化して、現在会員50名です。作業日は年間約45日、のべ600人程参加しています。未経験者が大部分で、昨年はチェーンソーの講習会を行いました。会が行っている主な活動は次のとおりです。

① 森林の整備。発足時からの主な事業です。成田市でも森林の荒廃は激しく所有者からの依頼で草刈り、倒木処理等を年間で1.2ha位行い、又会員の森林(80a)に檜桧を植樹し、建築用材とするため枝打ち、間伐をしています。

② 里山遊歩道の整備。成田空港北側にはホテル群があり、外国人が散策していることから日本の原風景の里山を再生しようと遊歩道を整備しています。成田空港会社と協力して、木道を設置し竹や常緑樹を除去して、桜、クヌギ、モミジなどの雑木林を育成しています。

③ アグリパークの整備。空港南側には長く放置された森林があり、絶滅危種が確認されています。その内2.8haに雑木林、野草の保護育成を行い、春には菜の花を咲かせています。



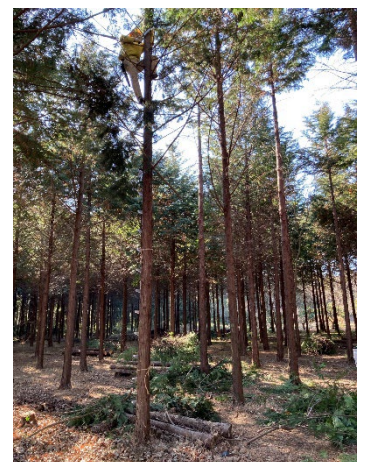
アグリパークの菜の花

④ 遊休農地の活用。現在耕作放棄地が増加していますが、所有者の依頼で60aの畑にクリの果樹園、会員の家庭菜園、家族・子供向けの野菜畑をつくり、芋ほり大会などを行っています。その他、里山に関する講演会、広報誌・里山通信の発行、小学校林の整備等を行っています。

最後に会の現在の悩みは会員の高齢化と減少です。いろいろな活動をして幅広く会員を募っていますがなかなか増えません。



里山遊歩道



ヒノキ林での枝打ち

# かぎろひを観る会が12月20日市原米沢の森・御十八夜でありました

ひがしの のにかぎろひの たつみえて かえりみすれば つきかたぶきぬ

〔歌意〕 東の野に曙光が見えて、心と後ろを振り返ってみれば西の空には月が傾いている

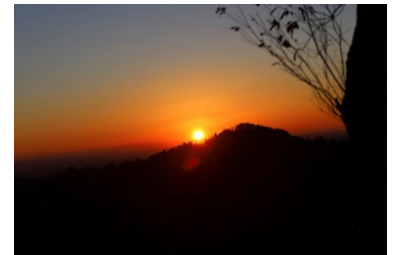
万葉集歌人 柿本人麻呂.

市原米沢の森でかぎろひを観る会があるとのことで行って来ました。御十八夜に着いた時にはすでに日の出が始まっていた。「かぎろひ」とは厳冬の良く晴れた日の出前、東の空を彩る陽光といわれています。天気も



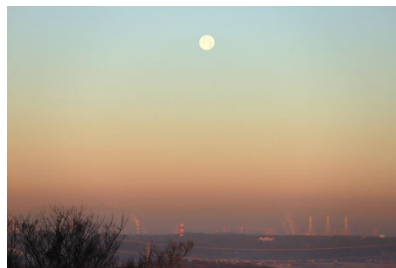
日の出直前のかぎろひ

快晴で素晴らしい日の出を観て、心と西の空をふりかえると、沈みゆく満月が観られ、地球の不思議を感じる事が出来ました。ここ米沢の森・御十八夜は東の空と西の空が同時に見える珍しい地で、万葉集で詠まれた奈良県宇陀郡宇陀町安騎野の地とか小笠原諸島父島・中央山の展望台などで、全国的にも珍しい場所といえます。ピーナスベルトとは、日の出・日没時に見られる大気減少で左下の写真のように、空の低い位置に



日の出づる陽光

ピンク色のグラデーションが現われます。夕焼けで見られるようなはっきりしたピンクではなく、白みがかったような、グレーがかったようなアッシュピンクの帯状のラインです。そして、そのピーナスベルトの下側に見られる紺色のラインはなんと、地球の影だそうです。なんとロマン溢れるスケール大きい地球の自然現象なのです。



西の空に沈みゆく月の下にピーナスベルトと地球の影が  
-市原米沢の森を考える会代表鶴岡清様の資料より引用しました-



### ※※※※※ 編集後記 ※※※※※

今年度最終号となりますが、ちば里山センターで予定されていた行事も無事終わり、締め括りとしてすべて載せかけたのですが誌面の都合もありかなり割愛させて頂きました◆来年度はそれぞれの里山団体の活動の様子や、新しい取組、地域で活躍している人などを取り上げていきたいと思っています◆(Y.A)

## 里山の風にゆられて ⑱



ホトケノザ<仏の座>シソ科オドリコソウ属

ホトケノザは早春に田んぼの畔などに咲き、葉の形が仏様の蓮座に似ることにより仏の座と呼ばれている。春の7草に数えられるホトケノザは「コオニタピラコ」のことで食用になりますが写真のホトケノザは食べられません。咲いている姿を眺めると、とても愛らしく、何か盛んにおしゃべりしているようで、まさしく春の到来を喜んでいるように見えます。

写真・文 赤松義雄 R4.3.3 袖ヶ浦市しいのもり

### 入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896 (平日9:00~17:00)

E-mail [info@chiba-satoyama.net](mailto:info@chiba-satoyama.net) ホームページ <https://chiba-satoyama.net/>